

令和2年度 【神戸市】認知症地域支援推進員活動報告

【神戸市】の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：105名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・認知症ケアパスの配布（区、地域包括）
 - ・認知症サポート医、認知症疾患医療センター等との連携
 - ・認知症ライフサポート研修の企画・運営（区、地域包括）
 - ・「高齢者安心登録事業」（行方不明の心配がある高齢者の事前登録、メール配信事業）における申請受理利用者本人との面談（地域包括）、登録情報管理・メール配信（市社協）
 - ・認知症初期集中支援事業における対象者の抽出、チーム員（医療・介護推進財団、市社協）、初期集中支援チームとの連携（地域包括）
 - ・認知症カフェの後方支援
 - ・認知症高齢者等声かけ訓練の企画・実施（区、地域包括）

報告者氏名：神戸市福祉局介護保険課 村上紗希
（具体的活動報告）：岩岡あんしんすこやかセンター

認知症の人にやさしいまちづくり条例の4つの柱にそって、施策を展開

予防及び早期介入

- ・ WHO、神戸医療産業都市、大学、研究機関等との連携による取り組み

地域の力を豊かにしていくこと

- ・ 交流できる環境や社会参加の場の整備
- ・ 中学校区単位での認知症高齢者等への声かけ訓練の実施
- ・ 行方不明高齢者早期発見事業の実施
- ・ 市民への啓発、児童、生徒への教育の推進

【取組例】

認知症カフェ（33か所）、認知症サポーター（約12万人）、認知症ケアパスの作成・配布、認知症地域支援推進員の配置（105人）、高齢者安心登録事業（約550名登録）、行方不明者緊急保護事業、認知症高齢者等声かけ訓練（9区）

治療及び介護の提供

- ・ **早期診断体制の確立**
- ・ 認知症初期集中支援チーム
- ・ 認知症疾患医療センター（市内7か所に設置。政令市最多）

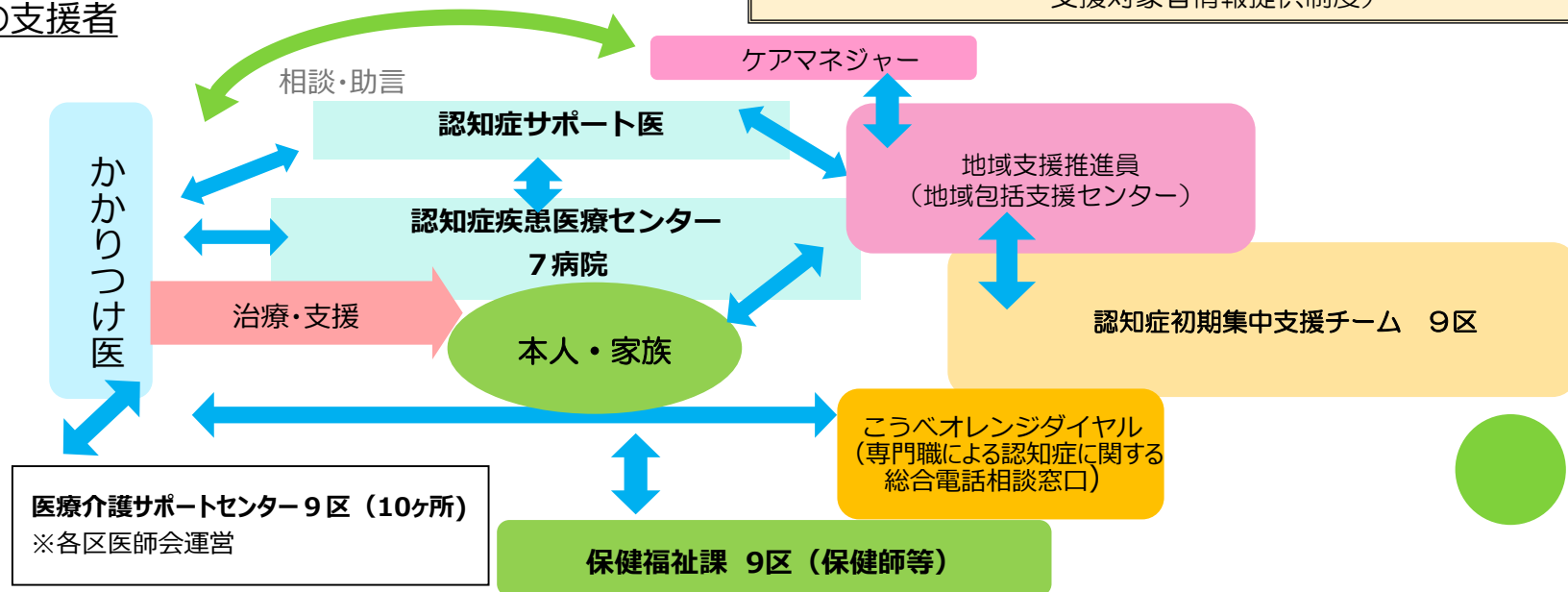
事故の救済及び予防

- ・ **認知症と診断された人による事故に関する救済制度の創設**
- ・ 認知症の疑いがある人の運転免許自主返納推進
- ・ 移動手段の確保等、地域での生活支援

◎その他の社会資源

- ・ KOBEみまもりヘルパーサービス（保険外サービス）
- ・ 若年性認知症事業（デイサービス等職員・ケアマネジャー向け研修、交流会・サロン）
（神戸市社会福祉協議会・老人保健施設主催の2箇所）
- ・ 県警による取組み（行方不明高齢者SOS（FAX）ネットワーク支援対象者情報提供制度）

日常の支援者



【神戸市】 R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告 テーマ番号<①>認知症初期集中支援事業の効果と課題

①悩んでいる家族と本人との出会い

令和2年3月…家族から電話での相談。

「認知症だと思う。どうしたらいいのかわからない。
腐ったものを食べないで薬をちゃんと飲んでほしい。
話し相手もない生活をおくっているので介護保険の認定を
うけてデイサービスに行って楽しく暮らしてほしい。」

本人「介護保険はいらない。私はなんでも自分で出来る。

困っていることはない。」

(家族が出来ないことを指摘すると表情がかたくなり
大きな声がでる。

→家族の声が大きくなりエスカレートする)



②初期集中支援チームにつなぐまで

家族の気持ちに寄り添い、つなぐために

「いつ」初期集中支援チームの情報提供をするか

- 家族の気持ちが混乱している状態。
- 傾聴して感情を整理できるのを待ち、家族がどうしたいのか、どうなってほしいと思うのか言語化できるよう面談をすすめ、その後、時間をおいてから情報提供を実施。

③センターの役割 1

- ご本人の同意が得られないため、別居の家族に同意書を作成していただく。
- 「認知症初期集中支援事業」という言葉は聞いたとがあるけれど、何をしているのか知らない開業医の先生に面談の予約を取り、後日、チーム員の方と同行。協力を依頼。



④センターの役割2

- 介護保険の家族申請支援と認定結果の確認。
（要介護見込みの高齢者の場合、居宅介護支援事業所からの介護保険申請につなぐ選択肢もあるが…すぐに介護保険サービスにつながらないケースで次々に相談窓口が増えていくことに家族がとまどうため、結果がでるまでセンターで担当に）
- 居宅介護支援事業所の選定支援の実施。
- 担当CMへの情報提供。

⑤初期集中支援チームの介入により

- 認知症初期集中支援事業介入時の目標であった「介護保険の申請」が、達成されたため、終結。
- 介護保険申請後、デイサービスを導入し在宅生活を継続中。



⑥初期集中支援事業の効果と課題

- 過去のケースでは何度もセンターが訪問して意思決定支援をおこない申請につないでいたが、センター職員の訪問は1回だった。
- ご本人は介護保険の申請を拒否していたが、チーム員の方の訪問で気持ちが動き、本人の同意のもとに申請することができた。
- CMがチーム員の方々と顔の見える関係ができた。
- 支援者同士、時間とともに有機的なネットワークに成熟していくことができる。
- 家族の要求が次々に変わり支援者がついていくのが精一杯の状況になった。
→相談窓口が次々と変わることで家族が不安になったのではないか。

最後に・・・（今後の取組みに対する認知症地域支援推進員としての思い）

岩岡の高齢者が望む生活を継続できるように、岩岡地域のCM連絡会等で認知症初期集中支援事業を伝えていきたい。